



大阪市南森町で街頭カンパ活動



枚方市職労が駅頭で支援カンパ活動

救護、給水、

食糧・物資配送、保育、心のケア…

住民の
くらしを守る

自治

体労働者の役割を
発揮するとき



淀屋橋で支援カンパ活動

遭された保健師は「被災された人たちは本当がまん強く、多くのものを失った中でもじっと耐えておられたのが印象的です。重い病気を持っ

被災地からの支援要請を受けて、大阪からも多くの自治体職員が現地へ支援に駆けつけて奮闘しています。支援内容は、救護、給水、食糧・物資の配送、保育、被災者の心のケア、健康相談など多岐にわたります。今こそ、住民のくらしを守る自治体労働者の役割を発揮するとき。大阪自治労連の単組も、各地で被災者への支援に全力を尽くしています。



被災地で、給水活動を行う交野市職員の仲間（岩手県宮古市にて）

被災地へ派遣された仲間が奮闘

給水車に被災者の行列
「明日も来てくれるのか」

水道職員は被災者への給水に駆けつけています。「現地に到着して、防潮堤を越えた船が高架道路の橋脚に激突して止まっている風景に思わず絶句した。給水している横を、自衛隊の車とサイレンを鳴らした救急車がひっきりなしに走っていた」（寝屋川市職員）、「給水を開始すると、あっという間に行列ができた。高齢者が多く『明日も来てくれるのか』の問いに（対策本部の命令で動いているため）はっきりと答えられず、やるせなさや腹ただしを感じた」（貝塚市職員）など、生々しい状況が報告されています。下水道職員も被災地の下水管調査に派遣されています。仙台市に派遣された堺市職員から「早朝はマイナス以下になる冷え込みの中、累計200キロを超える下水管を調査した」と報告が寄せられています。

日常生活に戻るまで
息の長い支援を

保健師は、被災者の健康相談や心のケア、医療への橋渡し、養護教諭と連携した児童や幼児への対応をしています。東大阪市から仙台市に派

ていたり、持病の薬が切れていた人もいました。避難者は、昼間は破損した自宅の片付け作業をして、夜には避難所に帰る毎日。日常生活に戻していく今後が大変です。しっかりと息の長い支援を続けることが大切だと感じました」とのべています。また、被災地の保育所にも、大阪府下の各自治体から保育士の仲間が支援に駆けつけています。

職場からも
心温まる支援が次々と

府下自治体の職場からも、心温まる支援が広がっています。松原市職労で、昨年ご主人を亡くされた非正

規労働者の組合員が、「組合から支給された弔慰金をどこかへ寄附しようと思っていました。自治体に働き、子どもに関わる仕事をしている者として、ぜひ役に立ててほしい」と全額寄附をしてくれました。富田林市職労の青年部は、昨年の「親子まつり」のフリーマーケットでの売上金を義援金として寄附することを決定。堺市では、市職労からの募金のよびかけに、100万円の寄附をしてくれた職員もいました。吹田市職労は、地域のボランティア協会や青年会議所と共催して4月2日に市内でチャリティーバザーを開催。多くの市民、職員が協力してくれました。

震災でエレベーターに閉じこめられ
各所にヒビわれ

旧WTCの府庁舎移転をためよー



あらためて危険性が明らかになった旧WTCビル(大阪府咲洲庁舎)

東日本大震災で大阪は震度3を計測しました。旧WTCビル（大阪府咲洲庁舎）には、地震発生時に約500人の職員がいました。大きな揺れで気分が悪くなったり、あわてて下の階へ逃れる人も、32基のエレベーターが停止

し、4基で人が閉じこめられ、救出されるのに数時間もかかりました。壁面に亀裂ができた、防火戸が歪むなど建物の各所にも被害が出ています。府職労はあらためて「旧WTCへの庁舎移転をやめよ」と要求しています。

今月のキーワード

国保の国庫負担

2008年度の一人当たりの年間国保料は8万3000円で、1984年度から倍増しました。逆に国保財政に対する国の国庫負担は1984年の50%から2008年度は24%に半減。国庫負担の減少に反比例して国保料が上がっています。国保料の滞納者も増え、自治体の差し押さえも急増しました。2009年度は18万2583世帯で、2006年からわずか3年間で倍増しています。

今月のキーワード

安全神話

「絶対安全だ」と思いこまされている、つくられた「信頼感」のこと。「実話」でなく「神話」という言葉に表されているように、「根拠のない思いこみ」「錯覚」という意味です。安全性が保たれている（ように見える）時はこの言葉は使用されず、崩れたときによく使われます。原発、航空機、建造物…ほかにも思いつくものはありませんか？